

魚介類自給率

更新日：2007.3.30

<代表値>

魚介類自給率：49%（うち食用自給率：55%）

<代表値のもととなる資料>

自給率に関する情報源として、農林水産省が毎年公表している「食料自給率レポート」と「食料需給表」がある。「食料自給率レポート」では、食料自給率に関する情報や食料需給表が掲載されている。「食料需給表」では、年度別の食料自給率や各食品の国内生産量、輸出入量、在庫量、国内消費仕向量（飼料用、種子用、加工用、減耗量、粗食料）、純食料、1人1日あたり供給量が示されている。食料自給率とは、食料消費に対して国産でどの程度賄えているかを示す指標であり（具体的には、国内消費仕向量に占める国内生産量の割合）、重量ベースの品目別自給率、カロリーベースの総合食料自給率、金額ベースの総合食料自給率で表される。

代表値には、「平成17年度 食料需給表」の2004（平成16）年度の自給率（確定値）を用いた。2004（平成16）年度における魚介類の自給率は、重量ベースで49%であり、そのうち食用自給率は55%である。下表に1960（昭和35）年から10年ごとの自給率を示した。

魚介類自給率（%）

	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2004年
魚介類（品目別自給率 ¹⁾ ）	108	102	97	79	53	49
うち食用自給率 ²⁾	111	108	97	72	53	55

出典：農林水産省（2006a, 2006b）

1) 品目別自給率とは、品目別の重量ベース自給率である。

2) 食用自給率は、国内生産量から国内産飼肥料仕向量を、国内消費仕向量から飼肥料仕向量をそれぞれ控除し、算出したものである。

<数値の代表性>

◇ 代表値の信頼性：高

食料自給率は、国内生産量や輸出入量等を考慮しており、信頼性は高いと判断できる。

◇ 代表性に関する情報

国内生産量と国内消費仕向量（国内生産量+輸入量-輸出货量-在庫の増加量（または+在庫の減少量））から算出されている。

◇ 入手できた資料の数

上記の2資料のみである。

<引用文献>

農林水産省（2006a），我が国の食料自給率とその向上に向けて－平成16年度 食料自給率レポート－，
http://www.kanbou.maff.go.jp/www/jikyu/jikyu01_16.html（アクセス日：2006.11.24）。

魚介類自給率

更新日：2007.3.30

農林水産省（2006b），食料需給表（平成 17 年度版），
<http://www.kanbou.maff.go.jp/www/fbs/fbs-top.htm>（アクセス日：2006.11.24）.

<更新履歴>

2007.3.30 / 代表値のデータを更新しました